



翔

2013
December
No. 225
百万石蝶談会

石川県志賀町鹿頭でリュウキュウムラサキを目撃

生 田 省 悟

このたび、リュウキュウムラサキを目撃したので、以下のとおり報告する。

2013年9月23日13時10分ころ 石川県志賀町鹿頭 リュウキュウムラサキ 1♀ 生田省悟

シルビアシジミ調査のおり、本個体が同地の海岸沿いの草むらをゆるやかに飛翔した後、海方向に飛び去って行くのを目撃したものである。斑紋から、明らかに♀個体であることも視認できた。石川県内にも影響を与えた台風18号（9月16日）に運ばれてきたのではないかと推測している。

なお、松井正人氏からは、今回が本県における本種目撃の6例目にあたるのご教示をいただいた。記してお礼申し上げます。

《 参考文献 》

松枝 章（1983）リュウキュウムラサキを珠洲市で目撃．とっくりばち(48):6.

松枝 章（2010）石川県でリュウキュウムラサキを確認．月刊むし(468):43.

渡部良樹（2003）石川県舩倉島でのリュウキュウムラサキの撮影記録．蝶研フィールド(205):25-26.

《いくた しょうご 〒921-8105 金沢市平和町3-22-10》

表紙のむし - ホシチャバネセセリ -

セセリチョウが好きだというチョウ屋は少数派だ。地味、地理的変異に乏しい、展翅が難しいなど、愛好家を魅了する要素が少ないからだろう。ある意味ホシチャバネセセリは、その代表かもしれない。先にあげた3要素に加え、小さいというハンディまで背負っている。これで珍しいという加点がなければ、おそらく誰も見向きもしないに違いない。

でも私は、ホシチャバネセセリに大きな愛着を感じることもある。それは、採り屋の私にさえ、翅を半開きにするモデルポーズを見せてくれる瞬間だ。デジカメの前でこのポーズをとられると、もうネットを振る気になれないから不思議である。

三上秀彦

石川県におけるウラナミシジミの早い目撃事例

竹谷 宏二

筆者は、2013年7月6日、石川県白山市尾添の白山一里野温泉スキー場のゲレンデにおいて、ミヤコグサで吸蜜するヒメシジミを撮影した際、偶然にウラナミシジミを同時に撮影した。石川県における本種の記録は通常、8月中旬からみられ、9月～10月に多くなる。

本県における最も早い記録は4月6日、次いで7月30日である。従って、今回の記録は4月6日に次ぐ早い記録と思われるので、ここに報告する。

なお、松井正人氏から、本種の早い記録について、文献情報をいただいた。ここに厚く感謝の意を表す。



2013年7月6日 石川県白山市尾添一里野温泉スキー場 1頭目撃 竹谷宏二

《 参考文献 》

- 川瀬英夫(1958) 金沢で4月にウラナミシジミを採集する(1958年4月6日、金沢市西御影犀川河原、1頭). 新昆虫 11(6):46.
- 松井正人(1998) チョウ目. 石川県の昆虫, pp. 352-353. 石川県自然保護課.
- 武藤 明(1962) 白山の注目すべき昆虫数種について(1961年7月30日、白山市三ツ谷、1頭). 生物研究(福井) 6(2):21-23.

《たけたに こうじ 〒924-0815 白山市三浦町44-2》

白山市河原山でメスグロヒョウモンを観察

松井正人

空は暗く今にも雨が降りそうな感じだったが、お天気は、だんだん良くなるとの予報に河原山へ向かった。叢に入っていると、羽化したばかりと思われるメスグロヒョウモンがフワリと舞い上がり、直ぐに止まった。近付くと飛び立つが、近くの葉に直ぐ止まる。追いかけてこをしていると、もう1頭が仲間入りしてきた。



図1. 曇りの日は、飛び立っても直ぐに止まったメスグロヒョウモンの♀
(2013年6月16日撮影)

2013年6月16日 石川県白山市河原山 3♀目撃 松井正人

クリの花に飛来するメスグロヒョウモンの♀を撮りたくて、再び訪れた河原山。何度か止まってくれるが、直ぐに飛び立ってしまう。天気が良いと元気に飛び回り、近付くこともできない。今日は、ウラギンヒョウモンがやたらと多く、クリにもたくさん止まっているが、紛れて飛来した♂を何とか撮影することができた。



図2. 青空の下、たくさんのウラギンヒョウモンに紛れて飛来したメスグロヒョウモンの♂
(2013年6月23日撮影)

2013年6月23日 石川県白山市河原山 1♂1♀目撃 松井正人

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

金沢市近郊のエゾハルゼミの鳴き始めと新たな観察地

松井 正人

林・税所(2011)によると、エゾハルゼミは、中部地方以西では、標高700~1500mの山地ブナ帯に見られ、5月中旬から7月末にかけて出現するとあり、石川県内においても、5月中旬~8月上旬にかけて鳴き声が観察されている。エゾハルゼミの鳴き声は、観察地が多い白山周辺では5月中旬から観察されているが、分布の境界となる金沢市近郊では、7月中旬にならないと観察できなかった。

今回、金沢市の医王山で、エゾハルゼミがいつから鳴き始めるのかを鳴き声トラップを使って調べたので紹介したい。また、金沢市内で新たに2カ所でエゾハルゼミを観察したので紹介する。

■医王山の鳴き声トラップ調査

松井(2013)で紹介した鳴き声トラップを使い、2013年6月23日から、9時~13時に毎日自動録音した。一週間に一度、録音媒体を交換して持ち帰り、自宅で録音を総て耳で聞いてエゾハルゼミの声を探したところ、7月2日に初めて鳴き声が録音されていた。

調査地	石川県金沢市医王山(標高880m)
調査期間	2013年6月23日から
録音時間	9時~13時(1日4時間)
鳴き始め	2013年7月2日 10時33分

■金沢市内の新たな観察地

金沢市近郊では、これまで奥獅子吼山(標高928m)と前述の医王山で観察されていたが、2013年は、新たに2カ所で鳴き声を観察した。順尾山登山口は、午前8時15分に直に耳で聞き、尾の谷は、7月10日~12日の3日間に渡り、午前8時0分から11時23分にかけて鳴き声トラップに録音されていた。

2013年7月6日 金沢市順尾山登山口(標高800m) エゾハルゼミ 声 松井正人
 2013年7月10日 金沢市国見尾の谷(標高730m) エゾハルゼミ 声 松井正人

《 参考文献 》

林正美・税所康正(2011)エゾハルゼミ. 日本産セミ科図鑑: 114-117.
 松井正人(2013)自動録音によるセミの定点調査. 翔(223): 6-8.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

石川県南部のホシチャバネセセリ調査記録

三上 秀彦

北陸地方におけるホシチャバネセセリ *Aeromachus inachus* の分布は局地的で、石川県加賀地方南部～福井県北部の低山地に、離散的に生息しているに過ぎない。植林後、数年を経た明るい斜面(写真)や、道路・林道の法面に生えるミヤマアブラスキ(*)に依存して発生しているが、樹木の生長や除草などにより、生息環境は常に変遷しており、安定的な発生地は多くない。

少し具体的に生息状況を記しておこう。現在、石川県で確認されているのは、能美市～小松市～加賀市の標高100m以下の低山地～丘陵地帯であるが、比較的安定的に見られるのは小松市遊泉寺町および那谷町周辺のみであり、それら以外では個体数はたいへん少ない。これまでの記録・調査では、発生している地域はすべて、手取川左岸～国道8号線～福井県境の範囲内である。また、福井県に関しては、1993年の採集記録(旧金津町鎌谷および清滝(下野谷、1995))以降の確認例を筆者は知らない。

このような状況をふまえ、筆者は2009年以降、本種の発生地や消長について調査してきたので、その概要を簡単に記録しておきたい。

表1. 石川県加賀地方でのホシチャバネセセリ確認地と記録

調 査 地	調 査 日	記 録	備 考
能美市和気町	2009年9月14日 2010年以降	3 幼虫(初齢) 確認できず	調査範囲での北限産地 発生環境は道路脇
小松市遊泉寺町	2009年9月6日 2009年9月21日 2010年6月25日 2010年7月10日 2012年8月25日 2013年8月16日	のべ4頭確認 幼虫多数確認 確認できず 6 幼虫 1 ♂採集 のべ3頭確認	発生環境は植林地 多くは初齢幼虫、一部卵 (確認者：吉村匡平)
小松市江指町(飛地)	2009年9月6日 2010年6月25日 2012年8月25日 2012年9月19日 2013年8月19日	2 ♂ 1 ♀採集 1 ♂確認 2 頭確認 幼虫10頭以上 確認できず	発生環境は植林地 すべて初齢幼虫
小松市馬場町	2013年6月24日	1 ♀採集	発生環境は尾根の鉄塔
小松市菩提町	2009年8月26日 2012年8月25日 2013年8月16日	1 ♂採集 1 ♂確認 のべ3頭確認	発生環境は林道脇

小松市那谷町	2009年 8月26日	3♂採集	発生環境は植林地 多くは初齢幼虫、一部卵 ほか数頭確認
	2009年 9月14日	幼虫多数確認	
	2010年 6月25日	2♂採集	
	2012年 8月25日	1♂確認	
	2012年 9月19日	幼虫10頭以上	
	2013年 8月19日	のべ10頭以上	
加賀市横北町	2009年 8月26日	1♂ 1♀採集	発生環境は植林地 2013年まで継続調査実施
	2010年以降	確認できず	
加賀市山中温泉菅生谷町	2013年 9月11日	2 蛹殻(**) (写真)	発生環境は道路脇
加賀市山中温泉荒谷町	2010年 6月25日	確認できず	発生環境は伐採地 (確認者：吉村久貴)
	2012年 8月27日	確認できず	
	2013年 8月19日	1♂確認	

※ 確認者の記述の無いものは、全て筆者が確認している。

生息を確認できなかった場所については、多数にのぼるため、上表では取り上げなかった。石川県加賀地方および福井県北部については、かなり綿密に調べたつもりであるが、発生環境が十分に整っていると感じられる場所であっても、生息を確認できない場所は枚挙にいとまがない。

ここで、2009年に発生を確認できたにもかかわらず、2010年以降に途絶えている2産地について、その環境変遷にふれておこうと思う。

能美市和気町では、道路脇の一角に生えるミヤマアブラススキで幼虫が見つかった。その上部は伐採後数年を経た灌木が茂る小規模な斜面で、所々に食草が散見された。灌木が繁茂する以前は、おそらくこの伐採斜面でも発生していたのであろう。2010年になると、伐採斜面では食草がまったく見られなくなっており、灌木の生長が著しく、ホシチャバネセセリが活動するような明るい環境ではなくなっていた。これが、当地での発生消滅の直接的な原因であろうと推測される。2012年まで確認できている小松市江指町の飛び地でも、同様の変遷が確認されるので、ここも近いうちに消滅するかもしれない。

いっぽう加賀市横北町では、2010年8月に植林斜面の草刈りが、地肌が現れるほどまでに行われた。斜面の一角に生えていた食草や、吸蜜源となっていたヒヨドリバナも、一時は完全に消失した状態となり、これが直接的な原因であったと考えられる。当地は現在でも明るい環境を維持しており、近くに供給源があれば再び発生地となるかもしれないと考え継続的に訪れているが、今のところ再確認には至っていない。

文末となったが、松井正人氏には、石川県での食草についてご教示いただいた。吉村匡平、吉村久貴の両氏には、貴重なデータをいただいた。また細沼宏氏には調査に同行いただくとともに、数々の情報をいただいた。記して感謝申し上げます。

* 石川県での食草はオオアブラススキとと思っていたが、松井正人氏よりミヤマアブラススキとのご指摘をいただいた。

** 蛹殻の形状および大きさからホシチャバネセセリと判断した。

《参考文献》

下野谷豊一(1995)金津町にてホシチャバネセセリを採集. 福井市自然史博物館研究報告(42):96.



図1. 典型的な発生環境(小松市那谷町)



図2. ホシチャバネセセリと思われる蛹殻



図3. ホシチャバネセセリ♂ (小松市那谷町、2013年8月19日撮影)



図4. ホシチャバネセセリ♀ (小松市遊泉寺町、2013年8月16日撮影)

《みかみ ひでひこ 〒920-0272 内灘町向陽台1丁目331番地》

石川県庁舎周囲に定着したクマゼミが鳴く時間帯

松井 正 人

石川県庁舎周囲では、クマゼミが継続的に観察されている（松井、2012）が、これは新庁舎建設時の2002年に、九州から根回しされた状態で送られた樹木が植栽された事（富沢、2004）による人為的な定着である。

2013年8月の調査では、駐車場西側の体育館周辺と同北西側の「県民の杜」、議会庁舎周辺の「県民の杜」でクマゼミが鳴いており、時間帯によっては常に複数個体の声を聞くことができた。クマゼミは、午前6時40分頃から鳴き始め、7時20分～9時30分頃には盛んに鳴いていたが、10時30分以降は鳴かなくなった。林・税所（2011）によれば、クマゼミは午前中に鳴き、7時～10時30分頃は盛んに鳴くとあり、発生数が少ない地にあっては、鳴く時間帯が絞られるようである。

クマゼミが鳴いていたのは、ケヤキ、アラカシ、シラカシ、タブ、トチ、アメリカフウで、ケヤキが最も多く、切り詰められて樹高が低いアラカシ、シラカシ、タブでは鳴いている個体を観察した。

2013年8月16日	石川県金沢市鞍月石川県庁	クマゼミ	1♂目撃声多数	松井正人
2013年8月22日	石川県金沢市鞍月石川県庁	クマゼミ	2♂目撃声多数	松井正人
2013年8月25日	石川県金沢市鞍月石川県庁	クマゼミ	1♂採集 1♂目撃	松井正人



図.1 タブやケヤキ、アメリカフウ等が植えられた駐車場から行政庁舎を望む



図.2 石川県庁周辺図



図.3 アラカシ樹上で鳴くクマゼミ 金沢市鞍月石川県庁 2013年8月16日9時25分撮影



図.4 クマゼミ ♂ (左:腹面、右:背面) 金沢市鞍月石川県庁 2013年8月25日8時50分採集

《 参考文献 》

林 正美・税所康正 (2011) クマゼミ. 日本産セミ科図鑑 89-93.

松井正人 (2012) 石川県庁舎周辺に於けるクマゼミ発生の可能性. 翔(219):3-4.

富沢 章 (2004) 石川県で相次いだクマゼミの記録. 翔(168):7.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

会員の動き・しゃばの動き

■スジアカクマゼミの樹

8月の話だが、昨年は日没の頃に観察し、今年は昼前と午後に観察した。背が4m程と低く、幹も腕の太さ位のオニグルミの幹や幹に近い枝にスジアカがベタベタと5～6頭止まっていた。子供用の虫採り網でも簡単に採れる樹が、川沿いに2本あった。

■河北潟周辺のツクツクボウシ

かつて舟入川が入り組んでいた潟周辺の低湿地、今では埋め立てられ湿地の面影は無く、田や宅地、公園に変貌している。こんなところにスジアカクマゼミは住んでいるが、森のセミと思っていたツクツクボウシも住んでいた。

■34日で1900km

宝達山から飛ばしたアサギマダラが、34日後に与那国島で西條さんに再観察された。与那国までの直線距離は1900kmもあり、毎日56km飛んだ事になる。重さ1g程のか弱い体のどこに、これほどのパワーが秘められているだろうか。

■いろんな虫の当たり年だったのに

ヒメシジミにクジャクチョウ、エゾゼミの仲間やエゾハルゼミと、今年は虫の当たり年で、8月末には白山市でムラサキツバメの発生も観察されていた。ムラサキツバメがどこまで広がるのか、かつての発生地を含めて調査が続けられていたが、見つかったのは最初の1箇所だけだった。

■一度は再観察したいマーク

一度は行きたい景勝地とか一度は登ってみたい山が有るように、一度は再観察した

いマークがある。アサギマダラの移動調査では、好きなマークが使えるが、「エリモ」や「ムロラン」、「うるま」や「あまみ」などは、あこがれのマーク。

■南西に分布拡大

2009年に小松で発生が確認されたシタバニハゴロモ、発生量が下火になり終息するかと思われたが分布は広がっていた。海岸線に沿って点々と見つかり、加賀市塩屋でも見つかった。

■テネラルだった

エゾゼミの仲間は、何と行っても綺麗なオレンジ色が命。羽化後の時間が短い個体を標本にすると、オレンジがくすんで標本は台無しになり、試行錯誤を繰り返しているが、妙案が無い。今年採ったアカエゾゼミはアドニスタイプだったが、採集時のピカピカオレンジは、今や見る影もない。

■ムネアカハラビロカマキリ

カマキリの仲間は、早々簡単には見つからず、花で獲物を待ち受けている個体を探しても、オオカマ、コカマ、ハラビロばかりで、成虫調査はあきらめた。冬枯れシーズンは卵鞘が目立つが、はたしてムネアカは見つかるか。

■ミヤマシジミ

1961年頃には手取川河川敷に普通に生息していた石川県のミヤマシジミは、1973年を最後に観察されていない。現存する標本は1♀のみで、国立科学博物館に所蔵されている。一方、富山県では健在で、寒くなった10月31日にも観察されている。

■ 国外再観察が目白押し

日本でマーキングしたアサギマダラが、初めて大陸で見つかったのは浙江省で、日吉氏の「わじま」マークだった。国外で見つかるのは、年に1頭有るか無いかだったが、今年は、蘇州で1頭、香港で1頭、台湾で8頭と、既に10頭が再観察されている。

■ 11月12日 宝達山に初雪

10月に入ってもマーキングが続き、13日までに160頭に達した宝達山、「今年はいつまでも暑いね」なんて話だったが、なんと1ヶ月後には初雪に見舞われた。慌てたのは町役場で、19日に閉山式を済ませ、「山の龍宮城」は冬ごもりに入った。

■ ただ今、南下移動中

夏から秋にかけて、白山周辺や宝達山など県内各地で標識されたアサギは約4700頭。今も南に向かって移動中で、再観察される場所も南下している。再観察は、現在63頭で、来年の1月まで続く。

■ 例会の記録 ■

10月3日(木) 浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、タマムシ大図鑑を著し飛ぶ鳥落とす勢いの福富氏が、思いを込めたキラキラ図鑑を一心に解説。発行日が同じだったカラブス図鑑にも話は及んだが、キラキラ度では言うに及ばないと、自らの図鑑を絶賛。

その他の話題は、ムラサキツバメの追加が見つからない、ナガサキアゲハは福井市まで、今年はアサギマダラの当たり年、能登のリウキュウムラサキ、朝しか鳴かない県庁のクマゼミ、アカエゾゼミのライトトラップ、マイマイってカラブスなの、ムネアカハラビロは見つかるか、洞窟調査の依頼、などなど。

参加は、井村、山岸、吉村、浅地、福富、大宮、松井の7人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

生田省悟：石川県志賀町鹿頭でリュウキュウムラサキを目撃	1
竹谷宏二：石川県におけるウラナミシジミの早い目撃事例	2
松井正人：白山市河原山でメスグロヒョウモンを観察	3
松井正人：金沢市近郊のエゾハルゼミの鳴き始めと新たな観察地	4
三上秀彦：石川県南部のホシチャバネセセリ調査記録	5
松井正人：石川県庁舎周囲に定着したクマゼミが鳴く時間帯	9
編集部：会員の動き・しゃばの動き	11

翔 225号

Tobu 2013年12月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

